



100曲の伝統音楽の録音&撮影をした。
古典音楽、ナツ神の音楽・・・。
ミャンマーの正月(4月)、水掛け祭りの最中、
黄色いパダウの花が咲き
雨期が始まる頃・・・。
最後の音楽の秘境



嗚呼、コトバに詰まります
こんなに心震える音景色が、我々と同じアジアに、
ミャンマーに潜んでいたなんて、..
"潜んでいた"とはコチラからの穿った見方だね、
この国は名前や政治情勢を(悲しくも)変えながら、
大河のように堂々と歩んでいたんだものね。
——ASA-CHANG(ミュージシャン)

聴いたことのないメロディ、聴いたことのないリズム。
アジア音楽最後の秘境、ミャンマーから届いた
魔法のような伝統音楽アンサンブル。
僕の知らないアジアがここにありました。
——大石 始(ライター)

西洋で育った人間の耳にはアジアの音楽は
「異質」なものが多いですが、
その中でもミャンマーの音楽はどこかフリー・ジャズのように
聞こえるところがあって不思議に感じていました。
その謎が少し解ける鍵がこの映画にあります。
——ピーター・バラカン(ブロードキャスター)

『Beauty of Tradition - ミャンマー民族音楽への旅 -』

監督・音楽・プロデューサー：川端 潤
撮影：万琳 はるえ 字幕翻訳：井上 さゆり
製作：プロジェクトラム/エアプレーンレーベル
配給協力・宣伝：太素
【2015年/日本/カラー/105分/ドキュメンタリー】
©株式会社プロジェクトラム
www.airplanelabel.com/myanmar/



7個のトランクを抱えて飛び込んだのは、ミャンマーの辺境
そこで出会った200年前のラブソング

これまであまり日本では紹介されることのなかった手つかずのピュアな
ミャンマーの伝統音楽を残したいという思いから、2013年の4月から
5月にかけての40日間、ミャンマーの最大都市ヤンゴン、その中心部から
少し離れた郊外の小さなスタジオに機材を持ち込み、録音、撮影を
敢行。全ての演奏は現地の演奏家によるもので、その収録曲はおおよそ
100曲にのぼった。世界でも非常に珍しい、またアーカイブとしても非
常に価値のある音源CD制作の録音風景の一部始終を撮影した貴重
なドキュメンタリー。

サインワイン、フネー、チーなどの楽器の演奏風景を中心に、僧院や
ヤンゴン国立文化芸術大学の若者たち、ミャンマーの正月の水かけ祭
りの様子も収められている。映像からはミャンマーの楽器はどの様なも
ので、ミュージシャン達が如何に考え、悩み、録音していったかが生々
しく伝わってくる。音楽最後の秘境ともいわれるミャンマーの伝統音楽
を知ろうというこの試みからは、変貌しつつあるミャンマーの現状も見
えてくる。監督は、写真家、作曲家、映画プロデューサーとしてこれ
までも映画音楽や製作に携わってきた川端潤。

